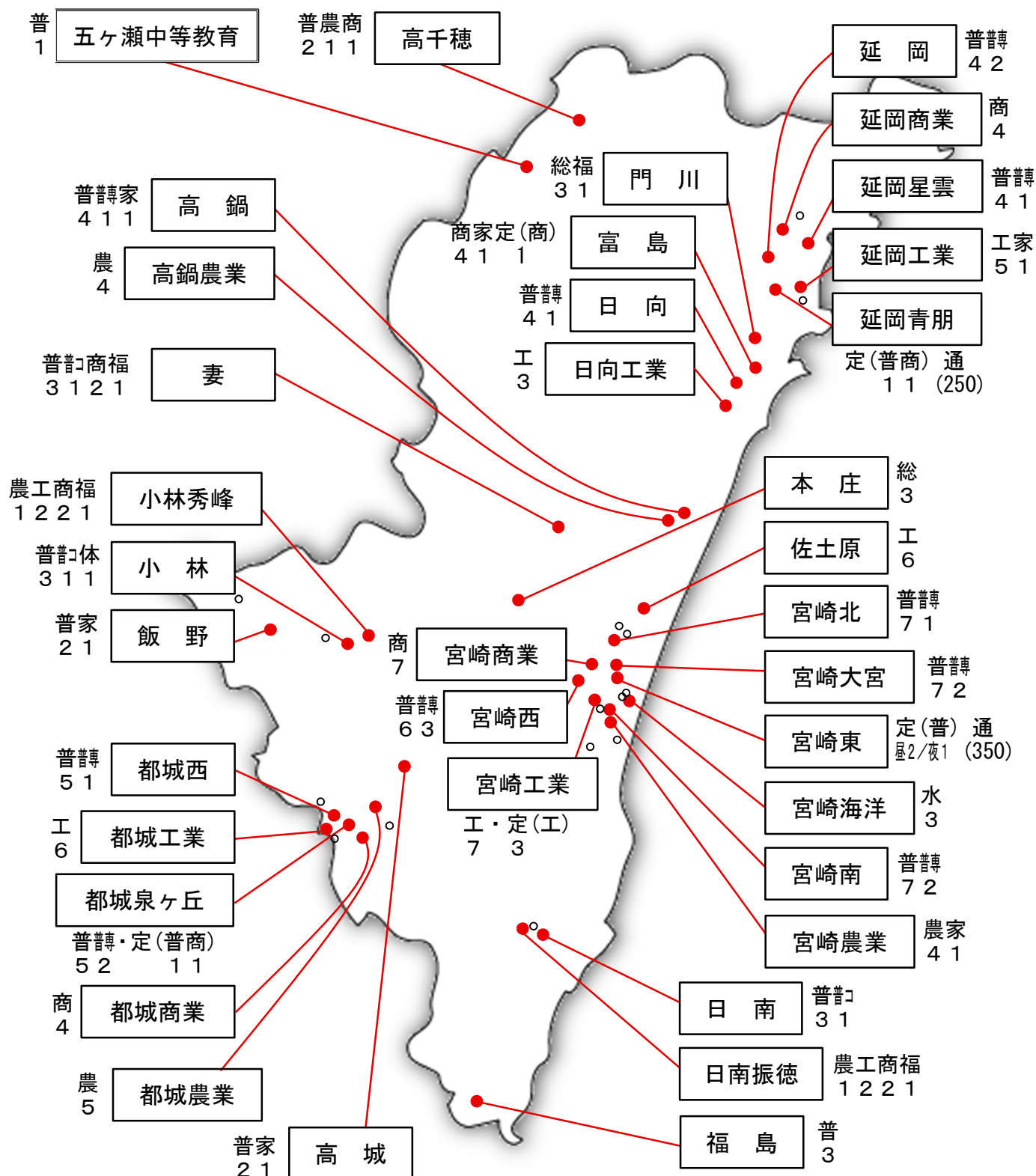


参 考 資 料

参考資料

宮崎県立高等学校・中等教育学校の配置（令和7年度）



普：普通科 普コ：普通科専門コース 普専：普通科系専門学科 体：体育コース
 農：農業科 工：工業科 商：商業科 水：水産科 家：家庭科
 福：福祉科 総：総合学科 定：定時制 通：通信制
 * 記号の下数字は、学科や課程の1学年の学級数、()内は通信制の定員

○ 私立学校

学校・学科別募集学級数等（令和７年度）

学校名		普通				農業										工業										商業				水産	家庭	福祉	総合	学級数	定員														
		普通	理数	メディア・カル・サイエンス	サイエンス	文科情報	フロンティア	探究科学	文理科科学コース	文理科科学コース	農業	園芸科学	畜産科学	食品科学	食品工学	生産流通	生物工学	環境工学	ライフデザイン	農業土木	地域農業	フードビジネス	機械	電気	電気電子	電子機械	電子情報	情報制御システム	生産システム	通信工学	建築	建設システム	土木			産業デザイン	化学環境	化学工業	環境化学システム	商業マネジメント	情報ソリューション	グローバル経済	商業	情報ビジネスフロンティア	海洋科学	生活文化	福祉	総合	
全日制	高千穂	2												1																														4	160				
	延岡	4	2																																								6	240					
	延岡星雲	4				1																																					5	200					
	延岡工業																					1	1			1								1							6	240							
	延岡商業																																	2	2							4	160						
	門川																																									1	3	4	160				
	日向	4				1																																					5	200					
	富島																																										1		5	200			
	日向工業																					1	1																			3	120						
	高鍋	4					1																																				1		6	240			
	高鍋農業										1		1	1							1																						4	160					
	妻	3							1																																			2		1	7	280	
	佐土原																								2	2			1															6	240				
	宮崎大宮	7				2																																							9	360			
	宮崎南	7					2																																						9	360			
	宮崎北	7																																											8	320			
	宮崎西	6	3																																										9	360			
	宮崎農業														1	1	1	1																										1		5	200		
	宮崎工業																					1	1			1		1	1																7	280			
	宮崎商業																																												4	2	1	7	280
	宮崎海洋																																												3		3	120	
	本庄																																												3	3	120		
	小林	3						1	1																																				5	200			
	小林秀峰									1													1	1																					1		6	240	
	飯野	2																																												1		3	120
	都城ヶ丘	5	2																																											7	280		
都城西	5																																												6	240			
都城農業										1		1		1																															5	200			
都城工業																						1	1																						6	240			
都城商業																																													2	2	4	160	
高城	2																																												1		3	120	
日南	3							1																																					4	160			
日南振徳																					1	1																						1		6	240		
福島	3																																														3	120	
小計	71	5	2	1	2	5	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	5	1	2	1	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	12	11	0	2	3	6	4	6	183	7,320				
計																																																	
定時制	延岡青朋	1																																													2	80	
	富島																																														1	40	
	宮崎東(昼)	2																																													2	80	
	宮崎東(夜)	1																																												1	40		
	宮崎工業																						1	1																					3	120			
通信制	都城ヶ丘	1																																													2	80	
	小計	5																				1	1																						3		11	440	
計																																																	
通信制	延岡青朋	250																																													250	250	
	宮崎東	350																																													350	350	
	小計	600																																													600	600	
	計																																																

(1) 全日制の課程

学校名	学科名	定員	計
高千穂	普通	80	160
	生産流通	40	
	情報ソリューション	40	
延岡	普通	160	240
	メディカル・サイエンス	80	
延岡星雲	普通	160	200
	フロンティア	40	
延岡工業	機械	40	240
	電気電子	40	
	情報技術	40	
	土木	40	
	環境化学システム	40	
	生活文化	40	
延岡商業	商業マネジメント	80	160
	情報ソリューション	80	
門川	総合学科	120	160
	福祉	40	
日向	普通	160	200
	フロンティア	40	
富島	商業マネジメント	80	200
	情報ソリューション	80	
	生活文化	40	
日向工業	機械	40	120
	電気	40	
	建築	40	
高鍋	普通	160	240
	探究科学	40	
	生活文化	40	
高鍋農業	園芸科学	40	160
	畜産科学	40	
	食品科学	40	
	フードビジネス	40	
妻	普通	120	280
	(文理科学コース)	40	
	情報ビジネスフロンティア	80	
	福祉	40	
佐土原	電子機械	80	240
	通信工学	40	
	情報技術	80	
	産業デザイン	40	
宮崎大宮	普通	280	360
	文科情報	80	
宮崎南	普通	280	360
	フロンティア	80	
宮崎北	普通	280	320
	サイエンス	40	
宮崎西	普通	240	360
	理数	120	
宮崎農業	生物工学	40	200
	生産流通	40	
	食品工学	40	
	環境工学	40	
	生活文化	40	

学校名	学科名	定員	計
宮崎工業	機械	40	280
	生産システム	40	
	電気	40	
	電子情報	40	
	建築	40	
	化学環境	40	
	インテリア	40	
宮崎商業	商業マネジメント	160	280
	情報ソリューション	80	
	グローバル経済	40	
宮崎海洋	海洋科学	120	120
本庄	総合学科	120	120
小林	普通	120	200
	(体育コース)	40	
	(探究科学コース)	40	
小林秀峰	農業	40	240
	機械	40	
	電気	40	
	商業マネジメント	40	
	情報ソリューション	40	
飯野	普通	80	120
	生活文化	40	
都城泉ヶ丘	普通	200	280
	理数	80	
都城西	普通	200	240
	フロンティア	40	
都城農業	農業	40	200
	畜産	40	
	ライフデザイン	40	
	食品科学	40	
	農業土木	40	
都城工業	機械	40	240
	情報制御システム	40	
	電気	40	
	建設システム	40	
	化学工業	40	
	インテリア	40	
都城商業	商業マネジメント	80	160
	情報ソリューション	80	
高城	普通	80	120
	生活文化	40	
日南	普通	120	160
	(探究科学コース)	40	
日南振徳	地域農業	40	240
	機械	40	
	電気	40	
	商業マネジメント	40	
	情報ソリューション	40	
福島	福祉	40	120
	普通	120	
全日制合計			7320

(2) 定時制の課程

学校名	学科名	定員	計
延岡青朋	普通	40	80
	商業	40	
富島	商業	40	40
宮崎東	普通		120
	(昼)	80	
	(夜)	40	
宮崎工業	機械	40	120
	電気	40	
	建築	40	
都城泉ヶ丘	普通	40	80
	商業	40	
定時制合計			440

《注》(昼)は昼間の部
(夜)は夜間の部

(3) 通信制の課程

学校名	学科名	定員	計
延岡青朋	普通	250	250
宮崎東	普通	350	350
通信制合計			600

※県立宮崎西高等学校理数科の募集人員120名には、同附属中学校からの入学者を含む。
※県立都城泉ヶ丘高等学校理数科の募集人員80名には、同附属中学校からの入学者を含む。

令和6年度 第1回宮崎県学校教育計画懇話会 議事概要（各委員から出された意見）

日 時：令和6年7月1日（月）午後1時30分から午後3時30分

場 所：教育委員会室

委 員：12名

長鶴美佐子（座長）	黒木貴（副座長）	榎木田朱美
片野坂 千鶴子	中村 智洋	黒木 健二
山下 恵子	長友 美紀（欠席）	今城 真美
出水 悌二	三輪 充子	森山 慎作

【地域の高校について】

・少子化の流れを抜本的に解決できるとは思えないため、エリア内で学ぶことの魅力を提供できるコンテンツを充実することも一つの考え方ではないだろうか。

・地域ならではの学校の特色は残してほしい。

・学校が廃校になるということは、卒業生や地域にとっては大きな損失であり、廃校はできる限りない方向性でお願いしたい。

・保護者も経済的な視点も含めて、地域に目を向けている部分もある。その上で、生徒の学びを保障するためにも、できる限り学校を残してほしいという思いがある。

・他県では小中／中高一貫校を増やす取組も見られており、学びの継続性を意識することも重要ではないか。

・県としての最重要課題は少子化だと感じている。また、定員充足率の低いエリアと人口減少の自治体はリンクしていると思われる。10年後の本県の人口構成を見据えて、県立高校の維持も議論する必要があるだろう（学校経営や経済的コストの視点から）。

・地域から学校がなくなることが、地域そのものの持続性に影響を与えることも認識しており、その両面から学校の統廃合について考えていくべきだと感じる。

・定員については、データに基づいて見直す議論があると納得感が得られると感じている。

・少子化の中でも教員数を確保しながら手厚い指導体制を確保するよう取り組んでほしい。

・小規模校のメリットをどう生かすかが、これからのポイントになるだろう。

・学区制がなくなったことが地域の学校の定員未充足の原因の1つだと感じている。

・定員内不合格についても問題視すべきであり、定員見直しの議論とともに押さえておかなければならないだろう。

【学科等の方向性について】

- ・既存の枠組みをどう生かして、再編するかが重要だと考えている。
- ・普通科の学びの在り方について、多様性を意識した取組が重要ではないか。
- ・大学入試も変革している中で、自分のもつ経験や知見を織り交ぜて、論述やディスカッション等で表現する力が重要ではないか（民間でも同様の視点で採用を進めている）。
- ・これまでの取組とその成果をデータに基づいてニーズを把握し、しっかりと学科等の在り方を議論することが重要ではないか。そのために、地域や社会のニーズを把握する場をもつことも大切だと感じる。
- ・芸術教育の観点が必要だと感じており、そういったニーズをもった生徒に対する学科等もあっていいのではないか。
- ・生徒が自分の在り様を全力で表現できるような学科があるといいと感じている。
- ・学校間の連携による取組があってもいいのではないか。
- ・（定員を満たす見込みの少ない1学年1学級のための産業系学科においては）そもそもの40人定員の見直しや、他県事例のような産業系学科のミックスがあってもよいのではないか。

【今後の県立高校の在り方について】

- ・企業にスペースを貸し出し、地域や企業が学校の中に入っていくような仕組みもあっていいのではないか。
- ・全国の高等特別支援学校では、地域開放型の取組を行っている事例もある（学校施設内にカフェを併設、福祉サービスの提供等）。
- ・幼稚園教育において、園を開放して地域づくりの取組を行っている事例もある。
- ・昨今では通信教育で学ぶ生徒が生き生きとしている実感があるため、県立高校でもそのような学び方を充実させる視点もあっていいのではないか。
- ・ICT活用が必然であり、積極的に活用すべきだと考えるため、県内の通信制課程の実態もデータとして示してほしい。
- ・総合探究の取組は普通科の魅力づくりになったと感じている。これからはデジタル教育を積極的に取り入れていくことが重要ではないか。
- ・子供たちが夢を描き、挑戦できるようになるためには、大人が豊かさを奪っているのかもしれない。その中で、飯野高校の取組が1つのモデルとなって、新しい価値を創造できる学校がたくさん生まれることを願っている。

・ 高校生が参加するイベントでは、学校の垣根を超えて高めあうような時間を日々のカリキュラムの中で、全ての高校の生徒が実現できるようになればいいと感じている。

・ VUCA※時代に入り、デジタル化が加速した中で、加えて GX の取組も始まっている。このように、先が読めない時代だからこそ、主体性を尊重した教育を進めてほしい。

※VUCA とは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧《あいまい》性）という四つの単語の頭文字を並べたもので、予測が難しく変化が激しい社会や経済情勢を表す言葉。

令和 6 年度 第 2 回宮崎県学校教育計画懇話会
議事概要（各委員から出された意見）

日 時：令和 6 年 1 0 月 1 1 日（金）午前 1 0 時から正午

場 所：防災庁舎 防 7 2 号室

委 員：12 名

長鶴 美佐子（座長）	黒木 貴（副座長）	榎木田 朱美
片野坂 千鶴子	中村 智洋	黒木 健二
山下 恵子	長友 美紀	今城 真美（欠席）
出水 悌二	三輪 充子（欠席）	森山 慎作

【宮崎県立高等学校教育整備基本方針改定について】

・知事部局では産業人材不足が喫緊の課題であり、県内就職率の部分我问われることが多い。県内就職率は年々上昇しているものの、全国比でみると低いと言わざるを得ない。県内就職率を向上させるためには、教職員や保護者の理解が不可欠だと思われるが、取組状況はどうか？

→教育委員会）就職支援エリアコーディネーターを 7 名配置しており、学校と地域、企業を繋ぐ役割を果たしている。また、エリアネットワーク会議を開催し、教職員や保護者向けの理解を促している。

・率直に、（宮崎県立高等学校教育整備基本方針の記載内容を）学校教育で全てが実現できるのか、高校生に求めることが増えているような印象を受けた。

・健康教育の推進について、「性教育」は社会的には、包括的性教育というワードで取組を進めている。県議会議員などが、包括的性教育に関する研修等に取り組んでいるので、参考にしてもらいたい。

・健康教育の推進を考える上で、食に関する取組は大切である。

・高等特別支援学校について、現在、各企業に対して障がい者雇用に関する理解を促す取組を進めている。

・発達障害をもった生徒の受け入れについて、企業側としてその特性を把握しづらい現状にある。生徒に関する情報の共有などの仕組み化が必要ではないか。

・インクルーシブ教育が進む中で、教職員の負担が増していくと予想される。そのため、人的支援、環境的支援について、今後必要になっていくのではないかと考える。

・地域課題解決の視点について、探究学習のサポート体制として、民間を上手く活用してほしい。

- ・ ICT の活用について、民間では DX や生成 AI に関する研修が数多く設定されているため、そのような場面を学校の中でも設定してほしい（教員だけでは対応できない時代になっているのではないか）。

- ・ 不登校支援について、スクールカウンセラーのニーズが高まっている。民間の積極的な活用や人員増を含めて、検討をしてほしい。

- ・ 定時制・通信制や広域通信制に関する記載が追記されているが、学科の方向性の中では特段の変更はないように感じている。

【県立学校におけるコミュニティ・スクール導入について】

- ・ 委員の委嘱については、学校の存続を主体的に考えることができるような立場（卒業生、地域の核となる方など）が望ましいのではないかと。

- ・ 保護者が「じぶんごと」として捉え、学校や地域に対して関わるようなスタンス（愛着心）を醸成することも大切だろう。

- ・ 学校と保護者、地域が「共創する」ことが重要ではないか。その際、卒業生でもある大学生が協議会等にも積極的に参加することで、より当事者意識をもった議論になるかもしれない。

- ・ 高校が地方創生の核として存続することは、大変重要である。人口減が進む中で、地域の希望として、学校を存続するための取組を進めていかなければならない。

【遠隔授業・通信教育について】

- ・ 受信側の生徒の不安感をどれだけ払拭できるかが重要であり、受信側の生徒をサポートする職員の役割も大切だと感じている（生徒の眩みや質問を拾う、代弁する役割がある）。

- ・ 都市部からの専門的な授業を受けるなど、大学でもコロナ禍以降も継続して遠隔授業を活用している。

- ・ 大学では通信教育の活用も実施しており、遠隔と通信のハイブリッド型の運用も検討してみてもどうか。

- ・ 校時程を揃える難しさ、配信教員の時間的負担など、他県でも課題があることを聞いている。一方で、配信拠点を設置する場合も、運用上の問題は生じるだろう。

- ・ 特別支援教育では、以前から積極的に遠隔授業を行ってきた。教員が遠隔地から配信する、配慮が必要な生徒が個別に受信するなど、学びの継続を実践できた印象がある。

- ・ 教え手の不足に対する対応としての遠隔授業に限定せず、生徒のニーズに対応した遠隔授業（生徒間のネットワーク構築）もあり得るのではないかと。